

湯浅、男子回転3位

スキー

W杯

【マドンナデイカンピ
リオ(イタリア)＝共同】



W杯83度目、初の表彰台

アルペンスキーのワールドカップ(W杯)は18日、3戦を行い、湯浅直樹(スロベニア)のイタリアのマドンナデイカンピリオ(イタリア)が2位と石井スポーツが2位と

回の合計1分44秒78で3位に入り、W杯で自身初の表彰台に立った。アルペン男子の日本勢の表彰台は、2006年3月に回転で佐々木明(ICI)が2位と

なっており、岡部哲也、木村公宣、佐々木に続いて4人目の快挙。

2回とも最速だったマルセル・ヒルシャー(オーストリア)が合計1分42秒50で今季2勝目となる通算14勝目を挙げた。フェリックス・ノイロイター(ドイツ)が1秒67

の差の2位で続いた。

旗門ぎりぎりを攻め、湯浅が硬くしまった急斜面を一気に滑り降りてきた。「ラストの6旗門から何も覚えていない」。コースアウトしそうなスピードで前のめりにゴールすると、そのまま転倒し、動けなくなった。研ぎ澄ました集中力で腰痛を抑え込み、快挙を成し遂げた。

2011年の世界選手権は6位で、昨季はW杯で5位が2度。こつこつ

2回目に2位の好タイムで滑り、順位を上げた湯浅AP

腰痛こらえ集中力発揮

と着実に力を蓄えてきたという。1回目後は29歳のレーサーは通算83度目のW杯で初の表彰台を「奇跡ではなく積み重ねの一つ」と言った。1回目26位で、5番目にスタートした2回目は「練習の滑りがうまく出た」という。結果的に2回目は2位のタイムで残り2人まで電光掲示板の一番上に名前が残った。「好成績が出るほど、今季開幕直前に出た腰痛が何度も再発し、この大会の前日も自力で歩くことがままならなかった。それでも「滑っている間は痛くない。集中力が極限の状態なので」とた。

自分の滑りに自信がつく勢いで上がってきた。来年2月の世界選手権、来季のソチ大会に大きな弾みとなる(共同)